

聖パウロ学園 同窓會會報

第6号

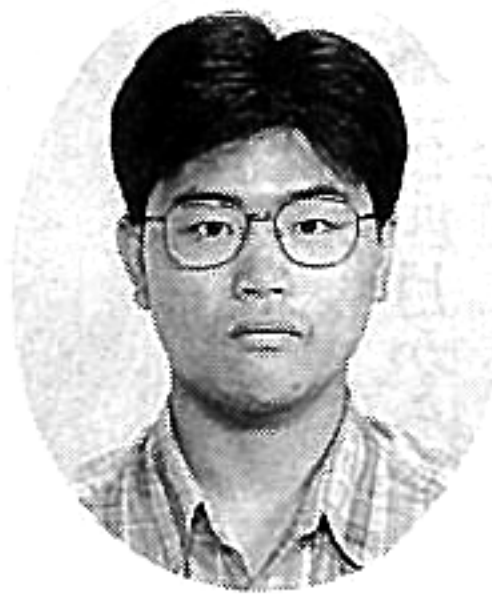
平成8年7月20日発行

—発行所—

聖パウロ学園内
同窓会事務局
〒525
草津市野路町178
☎0775-64-5600

十周年に向けて

更なる皆様の御協力を 会長 内田 和宏



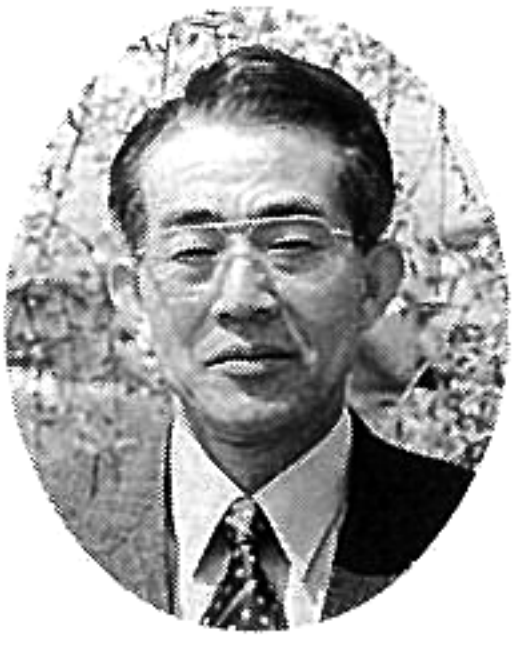
同窓生の皆様には、益々ご健勝にて御活躍のこととお慶び申し上げます。

本年、同窓会は第六期の卒業生百七十七名を迎え、会員数は九百十余名となりました。母校の創立十周年も二年後と迫りました。記念行事、事業の計画も委員会が組織され、具体的に進んでいくと思っております。

同窓生の中には、益々ご健勝にて御活躍のこととお慶び申し上げます。本年、同窓会は第六期の卒業生百七十七名を迎え、会員数は九百十余名となりました。母校の創立十周年も二年後と迫りました。記念行事、事業の計画も委員会が組織され、具体的に進んでいくと思っております。

ご挨拶

名誉会長 福本 萬生



平成八年も半ばとなりました。同窓会の皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、この度押田前校長の後任として光泉高校の校長に就任致しました。何分とも非才ですが、みなさんの母校の校長として学校の発展のために努力致したいと思っております。

すでにご存知かと思いますが、昭和六十三年（一九八八年）四月に開校された本校は、平成一〇年には創立一〇周年を迎えることとなります。

いま、母校ではその慶事を祝う記念行事としてどのような諸事業を計画したらいかが。校内に記念事業実行委員会を設置してその作業に取り組んでおります。

この事業の推進にあたっては、聖パウロ学園教育協力会・後援会・光泉高校同窓会という母校を取り巻く三組織が志を同じくして一丸となり事業の推進にあたらなければなりません。

元気と顔

前校長 押田 和男



一七七名の新会員を迎え、〇〇〇名になんなんとする同窓会に成長した総会が去る六月九日に盛大に行われました。ここに衷心よりお喜び申し上げます。創立十周年記念を二年後に控え、同窓会の果たす役割は極めて大なるものがあると思っております。どうか同窓会の皆さんの絶大な御協力を期待して止みません。

申しおくれましたが、私、平成元年四月から本年三月末までの七年間、本校に勤務し、皆さんと共に学んで参りましたが、この度福本前副校長先生とバトンタッチをして退職しました。思えば七年間（数学の非常勤講師四年間、その後管理職三年間）の勤務でありましたが、皆さんとは数学の授業やその他の機会を通して楽しく過ごさせて頂いたことを感謝しています。特に総会でお会いした皆さんの元気な姿に接したときは懐かし、又うれしく思いました。

次に顔についてですが、昔から「三十を過ぎれば自らの顔に責任を持つ」と云われている。他にも顔を汚すなとか、面子を考へろ、などの言葉があるが、一体顔とは何だろうか。不思議なもので、人の前でさらけ

とりわけ若い同窓生諸氏にとつては、卒業後の間もない時期にこの様な節目になる大きな行事に遭遇することは、意義深く得がたい機会であると思っております。それは前述の組織の連帯が重要な役割であることを感じます。

その意味におきまして、母校支援のため、できるだけ多勢の方が後援会に加入して下さいようお願い致します。

さて、昨今の教育界は生徒の進路をめぐる環境の変化や、大学入試制度の改変

に出して歩いている自分の顔であるのに、顔の話は気持ちのよいものではない。又大勢の中で自分の顔が歩いているのを見たとしたら、さぞ嫌悪に襲われるだろうと思う。しかし、顔というのは見る人の心によって、えると言われているから、その気になれば何にでも似てくるものだ。初めから偉い人の顔でないものでも、やる気をおこしてそんな役につけばどんな顔でもそれらしく見えるのである。顔も役に付けば誰でもその顔になってしまいうらしい。よくよしくなくてよいわけだ。My face is my face. という言葉もあるようです。

で、遅く生きる力をもった生徒諸君の育成の基礎づくりに努めたいと思っております。

実生で芽生えた幼木が、ようやく根付き、八年の年輪を数えたいま、その幼木が一輪一輪太って、遅い若木に成長し、やがて見上げる様な大木に育っていくよう、同窓会会員諸氏の母校へのあたたかいご支援ご協力をお願い申し上げます。



豊富な感動のステージへ
東急観光